

京を拓く

The Frontiers of Kyoto

□ 78 □



⑤「おんまえどおり」で談笑する統括施設長の杉原優子さん⑥「おんまえどおり」の外観—いずれも京都市上京区で、中山和弘さん撮影



JR田町駅(京都市中京区)から西大路通を北東へ、木造住宅や商店が並ぶ御前通沿いに進むと木製の「おんまえどおり」の看板が見えてくる。社会福祉法人「リガール暮らしの架け橋」が「きたおおじ」(同市北区)に続き今年4月開設したばかりの3階建て建物は、特別養護老人ホーム(特養)と小規模多機能型の介護ス

内部は段差のないバリアフリー構造。格子状の模様を敷き、イグサのほのかな香りが漂う落ち着いた雰囲気、床は転んでもけがをしにくい適度なクッション性が保たれている。希望すれば入浴や宿泊もできる。

「おんまえどおり」の看板が見えてくる。社会福祉法人「リガール暮らしの架け橋」が「きたおおじ」(同市北区)に続き今年4月開設したばかりの3階建て建物は、特別養護老人ホーム(特養)と小規模多機能型の介護ス

内部は段差のないバリアフリー構造。格子状の模様を敷き、イグサのほのかな香りが漂う落ち着いた雰囲気、床は転んでもけがをしにくい適度なクッション性が保たれている。希望すれば入浴や宿泊もできる。

統括施設長の杉原優子さんは語る。「小規模多機能は、ご本人の在宅での暮らしが基本です。一人暮らしでも、顔なじみの地域の人たちの力も借りながらスタッフと一緒に支援し、通ったり泊まったりできます。介護が必

小規模多機能で寄り添う

要になっても『通い』『訪問』『泊まり』を柔軟に組み合わせ、できる限り自宅暮らし続けることを大事に、支援しています」おんまえどおりは近所の主婦や学生も支援スタッフとして約10人採用。おんまえどおりたちにとって普段なじみある人たちに囲まれ、暮らしやすいように配慮している。25日には玄関駐車場スペースなども開放して町内の地蔵盆も開かれ、子供たちの歓声が響いた。全ての世代が集まり出会う広場になっている。

「まだ始まったばかりで手探りの面が多いです」と杉原さんは笑顔を浮かべ施設を案内してくれた。併設する特養では、介護が必要になり自宅での生活が難しくなったおんまえを支援。それぞれ自分の部屋で過ごしているおんまえが日中デイルームでくつろいでいた。京都市で75歳以上は2025年に43万人を超え、高齢化率は30%を上回ると予測されている。一人暮らし世帯数は15年の8万6000世帯から25年は11万1000世帯に。認知症の人は9万3000人との試算もある。

小規模多機能型施設は、リガール暮らしの架け橋理事長の山田孝志さんが「個室ユニット型特養を市内で開設した施設がなく、できる限り自宅で住み続けたい」との利用者の思いを実現しようと2004年開設

施設開設にあたり、認定介護福祉士医療やリハビリ、福祉用具、住環境など幅広い多様な知識を持ち、サービスの向上や人材マネジメントなどの面で介護福祉士らスタッフのリーダーとして高いスキルの発揮が期待されている。介護福祉士よ

山田さんは運営にあたる社会福祉法人の経営改革にも取り組んでいる。経営や活動区域が全く異なる社会福祉法人が集まって共同で事業展開する、一般企業の「ホールディングス方式」に似たグループ方式を編み出した。京都市4、京丹後市1、青森県平内町1、滋賀県東近江市1の法人が賛同。山田さんの法人を含め8法人で社会福祉法人グループ「リガール」を発足させた。

山田さんは、介護専門職の最上位資格で、地域での

地域密着型ケアセンター おんまえどおり
所在地 京都市上京区御前通下立売上ル天満屋町
敷地面積 875.11平方㍍
建物構造 鉄骨3階建て
延べ床面積 1598.29平方㍍
主な業務内容 地域密着型特別養護老人ホーム、小規模多機能型居宅介護、住宅型有料老人ホームと地域サロン
定員 地域密着型特別養護老人ホーム22人 小規模多機能型居宅介護29人 住宅型有料老人ホーム11人
介護スタッフ数(うち地元住民スタッフ数) 31人(14人)